

## 京都食ビジネスプラットフォームの取り組みについて

—京都府農林水産部流通・ブランド戦略課 参事兼食品産業振興係長・加茂雅紀—

農林水産省が2021年度から進めている「地域食農連携プロジェクト（L F P、2022年度からは地域食品産業連携プロジェクト）推進事業」を活用して、京都府内の食関連産業を取り巻く課題や、持続可能な開発目標（S D G s）、脱炭素などの社会的課題に対応し、新たな食ビジネスを創出するため、府では21年11月に「京都食ビジネスプラットフォーム」を設立した。その取り組みについて紹介したい。

### ◇プラットフォーム設立の経緯

少子高齢化が進み、共働きや単身世帯が増加するなどの社会構造の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で経済活動や消費者行動が変化中、観光や外食需要に依存してきた府内の飲食業や食品加工業、さらに両業種に食材を供給している農林水産業は、大きな影響を受けている。また、「人生100年時代」における健康やオーガニックへの関心の高まり、世界的な食料問題やS D G s、脱炭素などの社会的課題への対応など、食を取り巻く環境は大きく変化している。

さまざまな課題を解決し、食関連産業の振興を図るためには、新たなブランド価値の創出による付加価値の高い商品の開発と、多様なマーケットの開拓が必要であると考え、京都の食関連事業者が連携して、新たな食のイノベーションを創造する場として、京都食ビジネスプラットフォームを設立した。

22年9月現在で、プラットフォームには206事業者が参画している。内訳は、農林水産業28、食品製造・加工業66、飲食業34、卸売・小売業17、流通・情報通信・サービス業18、大学・研究機関6、その他37で、さらに増加する勢いとなっている。

### ◇新たな食ビジネス創出へ仕掛けづくり

府ではこれまで、農林水産物と加工品、飲食のそれぞれの業種で、ブランド化を図ってきた。

農林水産物では、京の伝統野菜を中心に、京都にしかない品目、他の産地に比べて特徴のある品目を「京のブランド産品」に認定し、首都圏を中心にP R・販売を進めてきた。加工品では、京都の職人の技にこだわった食品を「京ブランド食品」に認定し、付加価値の高い商品として展開してきた。また飲食では、京の食文化が培ってきた京料理を中心に、府民や国内外から訪れる多くの観光客に料理を提供してきた。

しかし、前述した課題を踏まえ、今後は、「生産」「加工」「流通・販売」の各段階でさらに付加価値を高め、業種間で連携し相乗効果を発揮することにより、これまでになかった新たなブランド価値を創出することを目指している。具体的なイメージとしては、例えば、「研究機関が開発した健康機能性のある野菜を使って、老舗料亭が機能性を失わない調理方法で加工し、最先端の長期保存技術を用いて、E C



加茂 雅紀（かも まさき）

（一社）京都府農業会議・農業ビジネスセンター京都【出向】において農業者の6次産業化支援、京都府農林水産部農産課においてコメや麦、豆類の生産振興の担当を経て、2022年5月から現職。



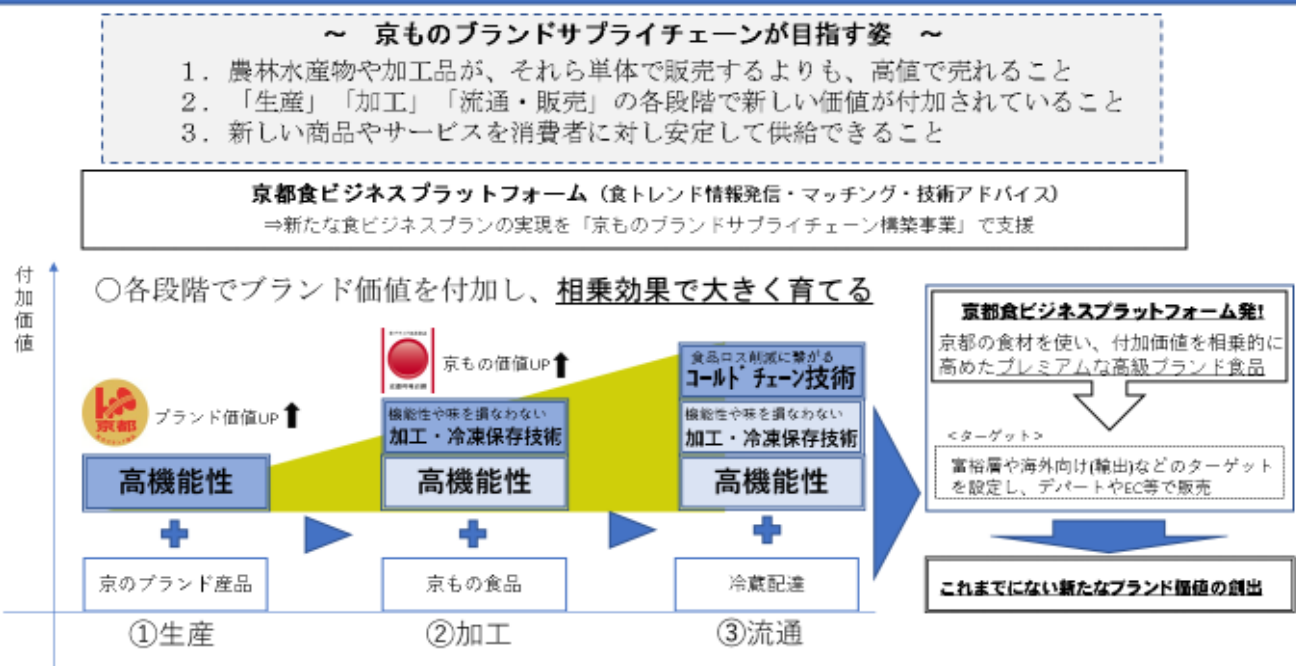
21年度のL F Pで開発したミルクキット

（電子商取引）サイトで全国や海外に販売する」というような、各段階で新たな価値を付加し融合させた新しい商品の開発やサービスの提供である。

新たなブランド価値の創出のため、プラットフォームでは、研修会やセミナー、ワークショップなどを開催。需要動向や社会のトレンドなどの市場情報、最新技術の紹介、新たなビジネスモデルの事例紹介などさまざまな情報を提供するとともに、参画事業者同士の交流・情報交換を活発に進めており、オープンイノベーションによる新たな食ビジネスの創出に向けた仕掛けづくりを行っているところである。

21年度は、農業者や京料理店などが連携し、京都の食材と、調味料、伝統工芸品のしつらえをセットにした、自宅で料亭の味を楽しめる豪華なミールキットを開発するプロジェクトが生まれた。

## 京ものブランドサプライチェーンによる新たな食ビジネスの創出



### ◇22年度の取り組み

22年度は、21年度のプラットフォーム全体の取り組みに加え、さらに具体的なビジネスの創出を促進するため、「プレミアム中食」「健康機能性」「保存・流通技術」「販路開拓・ブランディング」「フードテック」の五つの専門部会を設け、各事業者の関心に応じた分野ごとに参加できる仕組みにしている。また、各部会においては、産学公連携の促進と、事業者のマッチングやプロジェクト活動へのアドバイスなどを行う人材を配置し、伴走支援を行っているところである。さらに、新商品・サービスの開発に係る試作、試販などについては、モデルとなるプロジェクトはLFP推進事業で支援するとともに、その他のプロジェクトについては府事業の「京ものブランドサプライチェーン構築事業」で支援している。

まだ動きだしたばかりだが、プラットフォームにおける異業種連携により、さまざまなプロジェクトが立ち上がり、新たな食ビジネスを創出することで、京都の食関連産業が発展することを期待している。



専門部会でのワークショップの様子